

- 問1 源頼朝の直系の将軍が途絶えた後の鎌倉幕府において、北条氏が「執権」として実権を握り続けた背景や仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2023年 石川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 北条氏は守護や地頭の任命権を独占するため、将軍を完全に廃止し、執権を唯一の最高指導者とする新しい幕府の仕組みを構築した。 | 2. 将軍の権威が失墜したため、北条氏が執権という新たな将軍に代わる最高権力者の称号を朝廷から認めさせた。 | 3. 将軍を形式的な存在として残し、北条氏が執権の地位から幕政を統括することで、御家人たちの反発を抑えつつ支配を正当化した。 | 4. 執権はもともと天皇を補佐する職であったが、北条氏が幕府内にこの制度を導入することで、朝廷の権力を幕府に取り込もうとした。 |
|---|---|--|---|
- 問2 鎌倉時代、東大寺南大門に安置された木造彫刻は、筋肉隆々で写実的な表現がなされており、当時の武士の気風を反映しているとされています。運慶や快慶らが制作した、この力強い彫刻の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|----------|-----------|------------------|
| 1. 弥勒菩薩半跏思惟像 | 2. 金剛力士像 | 3. 阿弥陀如来像 | 4. 平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像 |
|--------------|----------|-----------|------------------|
- 問3 平安時代末期から鎌倉時代初期における次の3つの出来事について、年代の古い順に正しく並べ替えたものを1つ選びなさい。
ア：白河上皇が院政を始める。 イ：源頼朝が国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置する。
ウ：平清盛が武士として初めて太政大臣に就任する。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. イ → ア → ウ | 2. ア → イ → ウ | 3. ア → ウ → イ | 4. ウ → ア → イ |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
- 問4 元寇の際、博多湾に防塁を築くなどの防衛策を指揮した人物と、その拠点となった場所の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 1. 北条時宗 - 博多湾の沿岸 | 2. 足利尊氏 - 瀬戸内海の沿岸 | 3. 源頼朝 - 志摩半島の沿岸 | 4. 北条泰時 - 相模湾の沿岸 |
|------------------|-------------------|------------------|------------------|
- 問5 1185年、源頼朝が朝廷から設置の許可を得て、全国の支配を強めるために置いた役職について、その配置場所と役割の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 荘園や公領ごとに置かれた守護が土地管理を担い、国ごとに置かれた地頭が軍事・警察を担った | 2. 国ごとに置かれた守護が軍事・警察を担い、荘園や公領ごとに置かれた地頭が年貢の徴収や土地管理を担った | 3. 藩ごとに置かれた守護が年貢の徴収を担い、村ごとに置かれた地頭が警察権を行使した | 4. 国ごとに置かれた守護が検地を行い、荘園ごとに置かれた地頭が武士の教育を担った |
|--|--|--|---|
- 問6 鎌倉時代、源頼朝が全国に設置した「守護」と「地頭」の役割について、正しい説明はどれか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 守護は江戸幕府が藩を監視するために設置し、地頭はキリスト教の取り締まりを主な任務とした。 | 2. 守護は年貢の徴収や土地の管理を専門に行い、地頭は幕府の最高評議機関として政治の指針を決定した。 | 3. 守護は海外との貿易を管理するために港に置かれ、地頭は全国の戸籍を作成するために村ごとに置かれた。 | 4. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。 |
|---|--|---|--|
- 問7 13世紀の歴史的な出来事を整理した年表において、鎌倉幕府の成立から承久の乱を経て、武士による政治（武家政治）が確立されていく過程を示す具体的な出来事として最も適切なものはどれか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|
| 1. 足利義満が明との間で勘合貿易を始め、経済的な基盤を固めた。 | 2. 徳川家康が江戸幕府を開き、武家諸法度を制定して大名を統制した。 | 3. 聖徳太子が冠位十二階を定め、才能ある人材を役人に登用した。 | 4. 北条泰時が武士の慣習をまとめた御成敗式目を制定し、裁判の基準を明確にした。 |
|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|
- 問8 鎌倉幕府から江戸時代にかけて、将軍や戦国大名などの主君が、家臣に対してそれまでの領地の支配を認めたり、新しい土地を与えたりする一方で、家臣は主君のために軍役や番役などの奉公を行うという、土地を仲立ちとした結びつきを何といいますか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 公地公民 | 2. 主従関係 | 3. 班田収授 | 4. 中央集権 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問9 将軍と武士の主従関係において、将軍が武士に対して「土地の支配を認める」といった働きかけを行った際、武士がその見返りとして将軍に対して行うべき行動として最も適切なものはどれですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 戦が起きた際に軍勢を率いて参戦したり、京都や鎌倉の警備を担ったりする | 2. 領地で収穫された年貢のすべてを、幕府を通さず直接天皇へ献上する | 3. 下の身分の者が実力で上の身分を倒し、自らが支配者の座に就く | 4. 外国との貿易を独占し、得られた利益をすべて将軍に寄付する |
|---------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
- 問10 鎌倉時代の第3代執権として、承久の乱のあとに日本初の武士独自の法典である「御成敗式目（貞永式目）」を制定し、武家政治の基礎を固めた人物は誰ですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| 1. 北条政子 | 2. 北条泰時 | 3. 源頼朝 | 4. 北条時宗 |
|---------|---------|--------|---------|
- 問11 1221年、鎌倉幕府の三代将軍である源実朝が暗殺された後の政治的混乱に乗じ、幕府を倒して朝廷の権力を取り戻そうと兵を挙げた人物として正しい人名を選びなさい。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|----------|
| 1. 後鳥羽上皇 | 2. 白河上皇 | 3. 後醍醐天皇 | 4. 後白河法皇 |
|----------|---------|----------|----------|
- 問12 鎌倉時代の社会の様子や民衆の生活を描いた『一遍上人絵伝』には、備前国の福岡（現在の岡山県）において、月3回開かれる「定期市」で人々が取引を行う場面が描かれています。この絵巻物の題材となった、時宗の開祖は誰ですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 親鸞 | 2. 栄西 | 3. 一遍 | 4. 空海 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問13 北条泰時が独自の法典を制定した背景には、当時の御家人の状況に関する悩みがありました。泰時が法典を必要とした理由として最も適切な説明はどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 当時の御家人たちは難解な律令の内容をほとんど理解しておらず、裁判の基準が不明確であったから。 | 2. 徳政令を頻繁に出すことで、借金に苦しむ御家人の領地をすべて幕府が没収しようと考えたから。 | 3. 朝廷が定めた律令を全国の農民にまで徹底させ、武士の権威を否定する必要があったから。 | 4. キリスト教の布教を制限し、外国の影響を排除するための厳しい罰則が必要だったから |
|---|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 将軍を形式的な存在として残し、北条氏が執権の地位から幕政を統括することで、御家人たちの反発を抑えつつ支配を正当化した。	北条氏は源氏の血筋ではないため、自ら将軍になることは困難でした。そこで、皇族や公家から形式的な将軍を招きつつ、自分たちは「執権」という補佐役の立場で実質的な権力を行使しました。この仕組みにより、他の有力御家人たちとのバランスを取りながら、北条氏主導の政治体制を維持しました。
問2	答え 2 金剛力士像	鎌倉時代には、平氏による南都焼討で焼失した東大寺の再建が行われました。その際、運慶や快慶を中心とする慶派の仏師たちが、武士の好む力強く写実的なスタイルで東大寺南大門の金剛力士像を完成させました。選択肢にある阿弥陀如来像は、平安時代後期の優美な貴族文化（国風文化）において多く作られたものです。
問3	答え 3 ア → ウ → イ	白河上皇が院政を開始したのは1086年です。平清盛が太政大臣に就任して平氏政権を打ち立てたのは1167年です。源頼朝が国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置したのち鎌倉幕府を開いていく過程は1185年頃からです。したがって、年代の古い順に並べると「ア → ウ → イ」となります。
問4	答え 1 北条時宗 – 博多湾の沿岸	モンゴル軍の襲来に対し、鎌倉幕府の8代執権である北条時宗は、九州に所領を持つ御家人だけでなく、本来は幕府の支配下になかった公家領の底本（非御家人）に対しても異国警固番役を課すなどして、博多湾の防衛体制を強化しました。幕府はその後も三度目の襲来を警戒し、防壁の修復や警備を継続しました。
問5	答え 2 国ごとに置かれた守護が軍事・警察を担い、荘園や公領ごとに置かれた地頭が年貢の徴収や土地管理を担った	源頼朝は、対立した弟の源義経を捕らえるという名目で、朝廷から守護・地頭を設置する権利（権限）を認めさせました。守護は旧来の行政区分である「国」ごとに原則1人置かれ、軍事や警察の役割を果たしました。一方、地頭は個別の「荘園」や「公領」ごとに置かれ、現地の管理や税（年貢）の徴収を実務的に担当しました。これにより、幕府の支配力が地方まで及ぶようになりました。
問6	答え 4 守護は国ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。	鎌倉幕府の成立過程において、源頼朝は朝廷から守護・地頭の設置を認められました。守護は令制国（国）単位で設置され、国内の御家人の統制や軍事・警察的な役割を担いました。一方、地頭はより細かな単位である荘園や公領に配置され、土地の管理や年貢の取り立てといった実務を担いました。これにより、武士による支配が全国へと広がっていくことになりました。
問7	答え 4 北条泰時が武士の慣習をまとめた御成敗式目を制定し、裁判の基準を明確にした。	承久の乱を経て幕府の権力が全国へ広がる中、武士同士の領地争いを公平に裁く必要性が高まりました。北条泰時が制定した御成敗式目は、武家社会の慣習を成文化した初めての法律であり、武家政治を法的な側面から支える重要な役割を果たしました。
問8	答え 2 主従関係	武士にとって自らの生活基盤である土地（所領）を主君に保障してもらうことは、一族の存続に関わる極めて重要なことでした。この主君による土地の保障や給与を「御恩」、それに対して家臣が命を懸けて戦うことを「奉公」と呼び、この双方向の契約的な結びつきが武家社会の根幹となりました。
問9	答え 1 戦が起きた際に軍勢を率いて参戦したり、京都や鎌倉の警備を担ったりする	将軍から領地の支配を認められる「御恩」に対し、武士は「奉公」で応える必要があります。具体的には、戦時に命をかけて戦う軍役や、平時に幕府や要所を警備する「京都大番役」「鎌倉番役」などが挙げられます。このように、土地を仲立ちとして権利の保証と義務の履行がセットになっているのが、日本の封建制の特徴です。
問10	答え 2 北条泰時	北条泰時は鎌倉幕府の第3代執権です。承久の乱を経て、地頭として各地に任命された武士と、もともとその土地を支配していた荘園領主との間で、土地や年貢を巡る争いが急増しました。これを公平に解決するための裁判基準が必要となり、1232年に御成敗式目を制定しました。北条時宗は元寇の際の執権であり、混同されやすいため注意が必要です。
問11	答え 1 後鳥羽上皇	源氏の正統が途絶えたことを好機と捉えた朝廷側が挙兵しましたが、北条政子が御家人たちに対し、初代将軍・源頼朝以来の「御恩」を説いて団結を促したことで、幕府側が圧倒的な勝利を収めました。敗れた上皇は隠岐島（島根県）へ流されることとなりました。
問12	答え 3 一遍	一遍の生涯を描いた『一遍上人絵伝』は、宗教的な活動だけでなく、当時の地方の市場（定期市）や交通、民衆の服装などが写実的に描かれており、歴史学上の貴重な資料となっています。この中で、一遍は踊り念仏を通じて全国を巡る様子が記録されています。
問13	答え 1 当時の御家人たちは難解な律令の内容をほとんど理解しておらず、裁判の基準が不明確であったから。	北条泰時は、当時の武士（御家人）が京都の貴族が用いる難解な律令の内容を理解できていない現状を重く受け止めていました。そのため、漢字を使いすぎない平易な表現を用い、武士にとって納得感のある「道理」や「慣習」に基づいた独自の基準を示すことで、誰もが納得できる公平な裁判を実現しようとしました。